

授業科目名 <英訳>		遺伝カウンセリング演習 1 Genetic Counselling, Exercise 1			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 通年不定	曜時限	隔週：金5・6限	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語

[授業の概要・目的]

【基本情報】授業日時：金曜（原則第2、第4）5・6限、教室：G棟セミナー室A
 レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用）
 担当者：小杉眞司・和田敬仁・三宅秀彦・村上裕美・鳥嶋雅子・レクチャー担当者
 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ～一年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー
 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）

[到達目標]

症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる

[授業計画と内容]

<司会>カンファレンスレクチャー担当者
 【第1回】4/10<小杉>小杉眞司（イントロダクション）
 【第2回】4/24<和田>西山深雪（成育医療センター）「成育医療研究センターにおける出生前診断に携わる認定遺伝カウンセラーの役割」
 【第3回】5/8<村上>四元淳子（お茶の水女子大学）「遺伝カウンセラーの役割」
 【第4回】5/22<三宅>山田重人（人間健康科学系専攻）「ヒト発生と先天異常」
 【第5回】6/12<鳥嶋>喜多瑞穂（がん研有明病院）「がん専門病院における認定遺伝カウンセラーの役割」
 【第6回】7/3<三宅>倉橋浩樹（藤田保健衛生大学）「染色体異常の発生メカニズム―男と女―」
 【第7回】7/24<和田>千代豪昭
 【第8回】10/23<鳥嶋>佐々木規子（長崎大学）「遺伝カウンセラーとしての活動」
 【第9回】11/13<村上>北尻真一郎（耳鼻咽喉科）「先天性難聴の遺伝子診療」
 【第10回】11/27<三宅>池田真理子（神戸大学）「アンチセンス核酸をもちいた福山型筋ジストロフィーの治療」
 【第11回】12/11<鳥嶋>和田敬仁
 【第12回】1/8<小杉>「新年懇談会」
 【第13回】1/22<和田>西郷和真（近畿大学）「遺伝性神経変性疾患のメカニズムについて」
 <合同カンファレンスの具体的進行方針>
 1) 目的：合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想等は原則として除外。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったか等、内外の専門家の意見、討議を聞きそれに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。

遺伝カウンセリング演習1(2)へ続く↓↓↓↓

遺伝カウンセリング演習1(2)

- 2) プレゼンテーション準備：開始前にあらかじめプレゼンテーションを行う全てのパワーポイントファイルを開けておき、速やかに次のプレゼンへ移れるようにする。
- 3) プレゼンテーション：プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は15分以内（前半・後半をあわせて）、議論を10分程度とする。
- 4) スライド：議論が整理しやすいように箇条書きが望ましい。次の枚数を原則とする。前半：タイトル（日付・発表者・担当医名を含む）（1枚）、疾患理解のための説明（1枚）、相談の背景・主訴、家系図を含めて（2枚）。後半：相談経過（1-2枚）、課題・問題点（1-2枚）
- 5) 進行：疾患について、クラアイント受診背景を説明した時点で確認のための簡単な質問を受け、次に進む（発表者が忘れていれば司会者が調整）。遺伝カウンセリングの内容を説明した後で本来のディスカッションを行う。
- 6) アセスメントについて：質問や自分の意見、感想は全体の議論の話題になったら自分の意見として発言する。どうしても最初から出す必要がある場合は指導教官・同席医師と相談の上で行う。
- 7) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医確認の後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所保存する。（カンファ後1週間以内）
- *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。遺伝カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修科目（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」

【成績評価の方法・観点及び達成度】

プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。

【教科書】

ハンドアウトの配布は、原則としてありません

【参考書等】

（参考書）

【授業外学習（予習・復習）等】

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。